

インターバンクの声（2015年2月27日）

今週は米上下両院でのイエレン連邦準備制度理事会（FRB）議長の議会証言が注目の的となっていたが、結果的には実態経済を反映する指標結果や金利動向への反応が彼女の言葉に対する反応よりも強まる格好になった。2日間のイエレン議長の議会証言が終わった後は、FRBによる利上げが9月よりも後ずれするとの見方と、やはり6月に利上げとの見方が交錯したが、昨夜の米1月の消費者物価指数と耐久財受注が市場予想を上回ったことで、6月利上げ期待が再び高まった。一部の米地区連銀総裁が早期の利上げを示唆したことも影響したようだが、節目とされていたドル円の上値119円中盤とユーロ・ドルの下値1.12ドルをそれぞれ一気に突き抜けることはなかった。次の大きな指標発表となる来週の米雇用統計までレンジ相場が続くとの見方が一般的だろうが、今晚の米第4・四半期GDP改定値や来週初のISM製造業景気指数なども予想から逸脱するような数字になれば、それ以前に思わぬ展開になることもあるだろう。決済日は既に3月相場も始まっており、月末日の今日も油断禁物だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。